

大輪の大賀蓮花

古河公方公園の夏の代表選手は、もちろん「大賀ハス」です。

この大賀ハスは、2000年前の地層から発掘された実が発芽したもので、1975年に千葉市からハスの根2本を頂きました。植えられた大賀ハスは、その年の夏に花を咲かせ、その後、大賀ハス池は拡張され、現在では総面積3000㎡になっています。

ハスの花は、深夜から開き始め、朝7時～9時頃にお椀型に満開、花の姿は最も美しくなって、正午頃には完全に閉じてしまいます。6月下旬～8月上旬が開花期間ですが、最盛期は7月中旬ごろです。ご覧になりたい方は、これからの暑い時期、まだ涼しい早朝に散歩をしながらハスの鑑賞はいかがですか？



大賀ハス

懐かしい農の風景



御所沼の南側斜面にある田んぼ『ホツケ田』では、公園で活動している『どろんこクラブ』が田植えを行い、稲は順調に生育し、今後は草取り、稲刈りと進んでいきます。昔からこの湿地で田を作っていた人達の歴史を再現した農の風景の中、米づくりを体験する機会は、いい経験となることでしょう。

ミソハギの花



蓮池の近くには『ミソハギ』(別名しょうりょうばな精霊花)が咲いています。ラベンダーと似ているため、よく勘違いされる方がいますが、実は日本に昔からある花なのです。昔は、田んぼの畔あぜや、水辺などに自生していました。お盆の時期に沢山咲くことから、お盆の仏様へのお供えの花として良く使われていたそうです。